

長寿医療研究開発費 2025年度 総括研究報告（総合報告）

リアルワールドデータを用いた高齢者に対する医療・介護サービスにおける政策介入及び
臨床介入の効果推定（23-1）

主任研究者 大寺 祥佑 国立長寿医療研究センター 医療経済研究部（副部長）

研究要旨

本研究では、リアルワールドデータを用いて、高齢者に対する医療・介護サービスの提供実態、健康アウトカム及び費用を評価するための研究基盤を構築し、関連する解析を実施した。2023年度から2024年度にかけて、匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）及び匿名介護保険等関連情報データベース（介護DB）を利用するため、厚生労働省への変更申出、セキュリティ要件の整備、データ保管・運用体制の構築を進めた。これと並行して、民間レセプトデータ及び公表統計等を用いた基礎的・探索的分析を実施し、退院支援、在宅復帰、入院中の介護認定、入院リハビリテーションの長期化、排尿自立支援加算の地域差など、医療から介護への移行に関する政策的論点を整理した。2024年度には、高齢糖尿病患者に対する診療ガイドライン導入の影響評価に関する解析計画を策定し、プロトコル論文として公表した。2025年度には、策定した計画に基づいて解析用データセットを作成し、NDBを用いた解析を実施した。以上により、全国規模リアルワールドデータを用いた高齢者医療・介護政策評価の実施基盤を構築するとともに、今後の制度評価や政策立案に資する基礎的知見を得た。

主任研究者

大寺 祥佑 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター
医療経済研究部（役職名：副部長）

分担研究者

高士 直己 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター
医療経済研究部（役職名：研究員）

藤澤 岬 国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター
医療経済研究部（役職名：研究員）（2023年度～2024年度）

研究期間 2023年4月1日～2026年3月31日

A. 研究目的

本研究では NDB や介護 DB などのリアルワールドデータを用いて、高齢社会対策に関する政策介入の効果、及び高齢者に関する診療ガイドラインの導入などの臨床介入に関する効果について推定を行うことを目的とする。従来、効果検証のための標準的方法と考えられてきた RCT は一般化可能性に限界がある。そこでリアルワールドデータから得られたエビデンス（リアルワールドエビデンス:RWE）を政策や臨床における意思決定に活用することが期待されている。しかし高齢者医療や介護サービスにおける RWE の活用は十分とは言えず、本研究の必要性は高い。

本研究では主に次の 2 つのテーマに関する検討を行う：「診療報酬及び介護報酬の改定による高齢者に対する医療介護サービスの提供実態及び健康アウトカム、費用の変化」、「高齢者に対する診療ガイドラインの導入による臨床実態、健康アウトカム、費用の変化」。加えてこれらテーマに取り組む中、課題が生じた場合、必要に応じて「リアルワールドデータを用いた新しい解析方法の検討」を行う。

各テーマの概要は以下の通り。

①診療報酬及び介護報酬の改定による高齢者に対する医療介護サービスの提供実態及び健康アウトカム、費用の変化

2018 年度診療報酬改定及び介護報酬改定では、地域包括ケアシステムの構築と医療機能の分化・強化、連携の推進、自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現などの新しい政策方針が打ち出された。しかしこれらの政策介入の効果について十分な検証が行われていない。そこで我々はリアルワールドデータを活用し、これを明らかにすることで、将来の診療報酬・介護報酬同時改定などの政策立案に向けた示唆を得ることを目指す。

②高齢者に対する診療ガイドラインの導入による臨床実態、健康アウトカム、費用の変化

科学的根拠に基づく医療及び介護への関心とともに、高齢者に関連する診療ガイドラインの作成や改訂が近年活発に行われるようになってきた。一方で、作成及び改訂したガイドラインの臨床現場での活用、実践が今後の課題である。しかし実際の医療介護サービスや患者のアウトカムに対するガイドラインの作成や改訂の効果については十分な検証が行われていない。そこで我々はリアルワールドデータを活用し、これを明らかにすることで、今後のガイドライン作成や改訂に向けた示唆を得ることを目指す。

B. 研究方法

B-1. 研究体制及び解析環境の構築

初年度である 2023 年度から 2024 年度にかけて、NDB 及び介護 DB の第三者提供に係る変更申出を実施し、弊所における研究体制の整備及び解析環境の整備を進めた。また

2023 年度には、民間レセプトデータを購入し、クラウド上での管理・運営体制を構築した。

B-2. テーマごとの解析

2023 年度から 2024 年度にかけて、各研究テーマについて具体的な解析計画書及びデータ定義を策定した。これらの作業と並行して、民間レセプトデータ等の入手可能なデータを用いた探索的分析を実施した。

NDB 及び介護 DB を用いた解析に先立ち、両データベースに含まれる連結用識別子である ID4 の確認を行った。ID4 は、2020 年 10 月から運用が開始された識別子であり、カナ氏名、生年月日及び性別に由来するハッシュ値である。運用開始から比較的新しい識別子であることを踏まえ、2024 年度から 2025 年度にかけて、提供を受けた NDB 及び介護 DB データを用いて、解析に必要な範囲で ID4 による連結状況を確認した。

2025 年度は、前年度までに策定した解析計画書及びデータ定義に基づき、解析用データセットを作成し、解析を実施した。

(倫理面への配慮)

国立長寿医療研究センターの倫理・利益相反委員会にて承認（受付番号 No1752）を受けた。

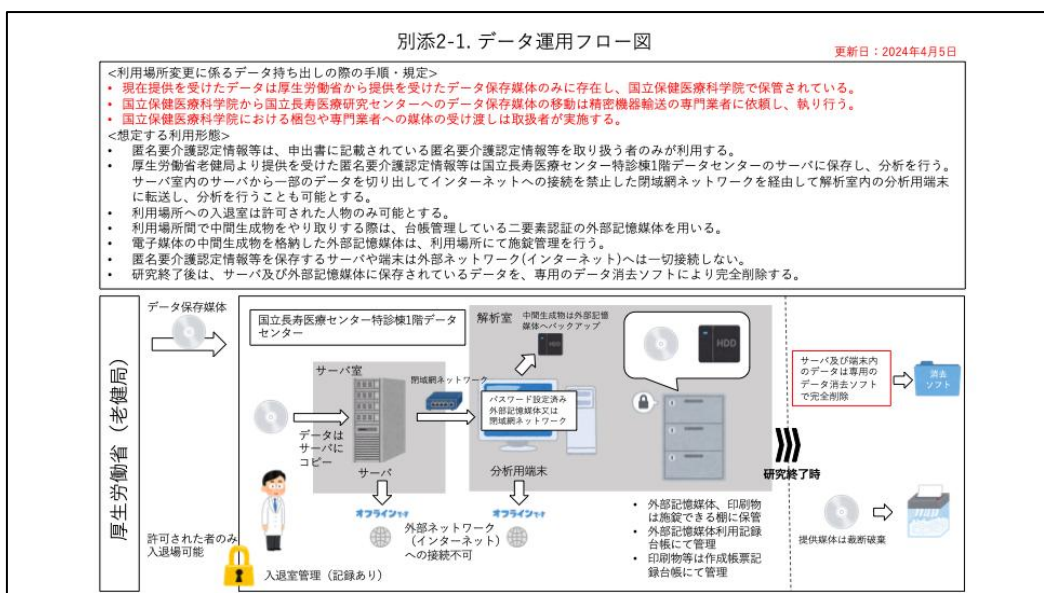
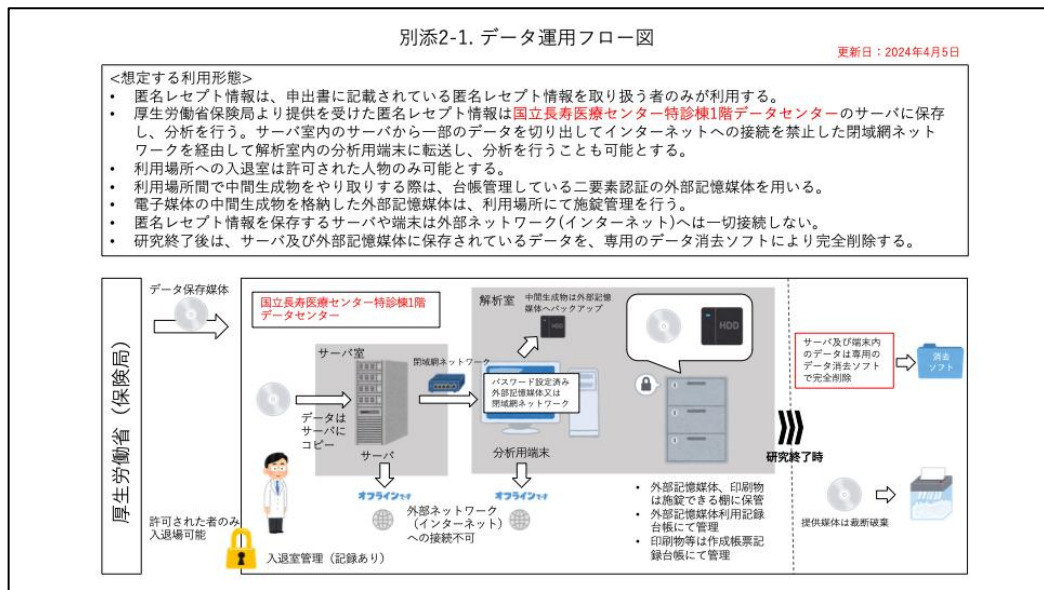
C. 研究結果

C-1. 研究体制及び解析環境の構築

2023 年度は、NDB 及び介護 DB データを弊所の研究組織において利用するため、厚生労働省への申出内容の変更を行うとともに、弊所内におけるセキュリティ面の整備を含む解析環境の構築を進めた。具体的には、NDB 及び介護 DB データの取扱いに求められるセキュリティ要件を満たすため、サーバー室及び解析室への入退室管理体制を整備した。NDB 及び介護 DB データの提供は当初計画より大幅に遅れたものの、最終的には図 1-2 に示すセキュリティ要件のもと、弊所データセンターにおいて、保管・運用している。

2023 年度には研究仮説生成や精緻化などを目的として、民間レセプトデータを購入した。購入した民間レセプトデータについては、効率的に運用するため Google Cloud Storage に保存し、2024 年度には BigQuery 上で SQL を用いて解析用データセットの作成を開始した。

さらに、解析環境構築の一環として、リアルワールドデータを用いる際の前処理負担の軽減を目的とした統計解析ソフト R の関数 `reshape_ndbop0` 関数を作成した。



C-2. テーマごとの解析

① 診療報酬及び介護報酬の改定による高齢者に対する医療介護サービスの提供実態及び健康アウトカム、費用の変化

本テーマに関連した分析として以下の解析を実施した。

タイトル：脳梗塞患者における退院支援関連診療行為の組み合わせパターンとその関連要因の探索

病院の医療サービスから地域介護サービスへの円滑な移行は、医療・介護連携の強化、在院日数の短縮及び再入院の減少において重要である。退院支援はその中心的役割を担い、複数の診療行為を組み合わせることで包括的な支援が可能となる。一方で、退院支援関連診療行為の組み合わせパターンについては、体系的な知見が十分ではない。そこで本研究では、脳梗塞患者を対象として、退院支援関連診療行為の組み合わせパターン及びその関連要因を探索し、今後の効果評価に向けた基礎資料を得ることを目的とした。

研究デザインは後ろ向き観察研究であり、データ源としてJMDC医療機関データベースを用いた。対象は、2022年4月から2023年9月に脳梗塞を契機にDPC対象急性期一般病院に入院し、退院支援関連診療行為を算定された40歳以上の患者15,135名である。評価対象とした診療行為11項目を、「退院計画」「病診介護間の情報共有」「病診介護間の連携・協働」「患者・家族支援」の4カテゴリに分類し、潜在クラス分析により組み合わせパターンを探索した。AIC及びBICに基づき最適なクラス数を決定し、条件付き推論木を用いて関連要因を探索した。

分析の結果、退院支援関連診療行為の組み合わせパターンとして、情報中心型、患者・家族支援中心型、包括型の3クラスが特定された。また、これらのクラスに関連する要因として、年齢、病床規模及び病院経営体を選択された。本研究により、退院支援は単一の診療行為ではなく、複数の診療行為の組み合わせとして提供されていることが示され、今後、入退院支援の効果を評価する際には、算定の有無だけでなく、実施パターンを考慮する必要性が示唆された。(Takashi N, Fujisawa M, Ohura T, Onishi J, Ohtera S. Variation in transitional care implementation patterns for older adults with stroke in Japan: A retrospective observational study. *Medicine (Baltimore)*. 2026 Mar 27;105(13):e48161.)

タイトル：介護高齢者における入院リハビリテーションの長期化に関する研究

要介護高齢者に対するリハビリテーションでは、医療から介護への円滑な移行が求められるが、実際には入院リハビリテーションの長期化が課題となる場合がある。本研究では、入院リハビリテーションの長期化に関連する社会経済的要因を探索することを目的として、都道府県レベルの生態学的分析を実施した。

入院リハビリテーションの長期化は、日数上限を超えるリハビリテーション料の算定量を用い、標準化レセプト出現比として評価した。分析の結果、日数上限を超える運動器リハビリテーションの算定量は、高齢者単身世帯数が多い地域で統計的に有意に高い値を示した。この結果は、入院リハビリテーションの長期化には、医療提供体制だけでなく、地域の社会経済的要因が関与している可能性を示唆するものである。

タイトル：入退院支援と在宅復帰に関する研究

効果的な入退院支援は、医療から地域生活への移行を促進し、入院期間の短縮や再入院率の低下に寄与する可能性がある。我が国では、2018年の診療報酬・介護報酬の同時改定において入退院支援加算が新たに設定されたが、その政策的効果については十分に検証されていない。そこで本研究では、入退院支援加算と患者アウトカムとの関連を探索的に分析した。

入退院支援加算の算定量を基に算出した標準化レセプト出現比を曝露変数とし、自宅退院数、30日以内の再入院数、平均在院日数及び一人当たり医療費をアウトカムとして設定した。都道府県レベルの生態学的データを用い、多変量負の二項回帰モデルにより社会経済的共変量を調整した。分析の結果、入退院支援加算の算定量が多い地域では、自宅退院数が統計的に有意に多いことが確認された。この結果は、入退院支援加算が高齢者の在宅復帰と関連する可能性を示唆するものである。(Takashi N, Fujisawa M, Ohtera S. Associations Between Successful Home Discharge and Posthospitalization Care Planning: Cross-Sectional Ecological Study. JMIR Form Res. 2024 Dec 12;8:e56091.)

タイトル：入院中の介護認定と在院日数に関する研究

介護認定の遅れは近年重要な課題として指摘されており、2024年の規制改革推進会議でも議題として取り上げられた。一方で、介護認定の遅延が医療提供体制に与える影響については十分に明らかにされていない。そこで本研究では、入院中の介護認定申請と高齢者の在院日数との関連を探索的に検討した。

分析には都道府県レベルの生態学的データを用い、65歳以上の平均在院日数をアウトカム、入院中の介護認定申請割合を曝露変数として、多変量線形回帰モデルを構築した。地域の社会経済的要因及び医療資源の分布に関する共変量を調整した結果、入院中の介護認定申請割合が高い地域では、65歳以上の平均在院日数が統計的に有意に長いことが示された。この結果は、介護認定手続きの迅速化が医療提供体制の効率化に寄与する可能性を示唆するものである。(Takashi N, Onishi J, Fujisawa M, Ohura T, Ohtera S. Association Between In-Hospital Applications for Long-Term Care Services and Hospital Length of Stay Among Older Adults: Ecological Cross-Sectional Study. JMIR Form Res. 2025 Sep 8;9:e76782.)

タイトル：排尿自立支援加算に関する研究

2016年に保険収載された排尿自立支援加算について、その算定状況と拡充に向けた課題を検討するため、地域差の程度及びその経時変化、さらに地域差に関連する要因を探索的に分析した。

地域差の程度は、排尿自立支援加算算定量を基に算出した標準化レセプト出現比を用いて評価した。分析の結果、排尿自立支援加算の地域差は保険収載後から縮小傾向にあるものの、依然として地域差が残存していることが確認された。また、地域差に関連する要因として、泌尿器科医師数及び看護師数が統計的に有意な関連を示した。この結果は、排尿自立支

援の提供体制には地域の医療資源が影響している可能性を示しており、地域差を低減するための医療資源の適正配置や体制整備の必要性を示唆するものである。(西井久枝, 高士直己, 神谷正樹, 社本憲俊, 杉原嘉一, 大寺祥佑, 野宮正範. 日本における排尿自立支援加算の地域差とその関連因子の解析：NDBオープンデータを用いた研究. 日本排尿機能学会誌. 2025;35(2):570-578.)

さらに、関連する方法論的検討として、NDBを用いた医療費分析の応用可能性を検討するため、造血幹細胞移植を対象に、移植実施中及び移植後に発生する医療費の把握方法について分析を行った。本分析は、NDBに含まれる診療報酬請求情報を用いて、高額医療技術に伴う医療費及び費用構成を全国規模で把握するための方法論的知見を得ることを目的とした。(Watanabe M, Ohtera S, Kanda J, et al. Real-world medical expenses of hematopoietic stem cell transplantation in Japan: a nationwide database study. Bone Marrow Transplant. 2026;61(1):114-117. doi:10.1038/s41409-025-02753-5.)

②高齢者に対する診療ガイドラインの導入による臨床実態、健康アウトカム、費用の変化

本テーマでは、高齢者に対する診療ガイドラインの導入が、臨床実態、健康アウトカム及び費用に与える影響を評価することを目的とした。具体的には、高齢糖尿病患者に対する血糖管理目標の見直しに着目し、その導入前後における薬剤使用、重症低血糖、糖尿病性ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖状態の発生及び医療費の変化を評価する計画を策定した。

2024年度は、代謝・内分泌研究部と連携し、解析計画書を策定・精緻化した。その成果として、全国規模の保険診療データを用いた分割時系列解析のプロトコル論文を発表した。

(Takashi N, Omura T, Iijima H, Ohtera S. Evaluation of the impact of a recommended shift in glycaemic management targets for older adults on clinical outcomes and healthcare expenditures in Japan: a protocol for interrupted time-series analysis using a nationwide health insurance claims database. BMJ Open. 2026 Jan 22;16(1):e111616.)

2025年度は、前年度までに策定した解析計画書に基づき、解析用データセットを作成し、主要アウトカム及び薬剤使用に関する解析を実施した。解析結果は厚生労働省による公表物確認を経たのち、査読付英文学術誌に投稿予定である。

D. 考察と結論

本研究ではNDBや介護DBなどのリアルワールドデータを用いて、高齢者への医療介護サービスに関する臨床及び政策介入の効果について推定を行うことを目的とした。

2023年度から2024年度にかけて、NDB及び介護DBの提供に係る厚生労働省への申

出内容の変更、セキュリティ要件の整備、データ保管・運用体制の構築を行うとともに、民間レセプトデータを購入し、解析基盤を構築した。加えてリアルワールドデータを用いる際の前処理負担の軽減を目的とした統計解析ソフト R の関数 `reshape_ndbop()` 関数を作成した。

NDB・介護 DB の提供は大幅に遅れたものの、診療報酬及び介護報酬改定に関連するテーマでは、医療から介護への移行に関する基礎的・探索的分析を実施し成果を得た。具体的には、退院支援関連診療行為の組み合わせパターン、入院リハビリテーションの長期化、入退院支援と在宅復帰、入院中の介護認定申請と在院日数、排尿自立支援加算の地域差を検討した。これらの分析により、医療・介護サービスの提供実態には、地域の社会経済的要因、医療資源、施設特性及び医療・介護連携の実施状況が関係する可能性が示された。また、退院支援の評価においては、診療行為の有無だけでなく、複数の診療行為の組み合わせを考慮する必要性が示された。さらに、NDB を用いた医療費分析の方法論的検討を行い、高額医療技術に伴う医療費及び費用構成を全国規模で把握するための知見を得た。

高齢者に対する診療ガイドライン導入に関するテーマでは、高齢糖尿病患者に対する血糖管理目標の見直しに着目し、薬剤使用、重症低血糖、糖尿病性ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖状態及び医療費の変化を評価するための解析計画を策定した。2024 年度には分割時系列解析のプロトコル論文を公表し、2025 年度には解析用データセットを作成して NDB 解析を実施した。

以上より、本研究では、全国規模リアルワールドデータを用いた高齢者医療・介護政策評価の実施基盤を構築するとともに、医療から介護への移行、地域差、費用分析及び診療ガイドライン導入に関する基盤的知見を得た。これらの成果は、診療報酬・介護報酬改定及び診療ガイドライン導入が、高齢者の医療・介護サービス提供実態、健康アウトカム及び費用に与える影響を評価するための基礎資料となる。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

2023 年度

- 1) Shinjo D, Ozawa N, Nakadate N, Kanamori Y, Matsumoto K, Noguchi T, **Ohtera S**, Kato H. Development of a set of quality indicators in paediatric and perinatal care in Japan with a modified Delphi method. *BMJ Paediatr Open*. 2023 Nov; 7(1):e002209.

- 2) Muroi D, **Ohtera S**, Saito Y, Koyake A, Higuchi T. Pathophysiological and motor factors associated with collision avoidance behavior in individuals with stroke. *NeuroRehabilitation*. 2023;52(2):155-163.

2024 年度

- 1) Hiyama Y, Taniguchi M, **Ohtera S**, Wada O, Tanaka S, Kako M. Quality indicators for the rehabilitation before and after total knee arthroplasty in Japan: a modified Delphi method and practice test. *Arthroplasty*. 2025 Mar 6;7(1):11.
- 2) **Takashi N**, **Fujisawa M**, **Ohtera S**. Associations Between Successful Home Discharge and Posthospitalization Care Planning: Cross-Sectional Ecological Study. *JMIR Form Res*. 2024 Dec 12;8:e56091.
- 3) **Ohtera S**, Kato G, Ueshima H, Mori Y, Nakatani Y, Nakayama T, Kuroda T. Variation in utilization of postoperative rehabilitation following total hip arthroplasty in Japan. *Arch Phys Med Rehabil*. 2024 May;105(5):850-856.

2025 年度

- 1) Omura T, Sugimoto T, Sugie A, Ban M, Toda A, Tanaka S, Kinoshita T, Yamauchi N, Tanabashi M, Ohshima Y, **Takashi N**, **Ohtera S**, Kamihara T. Functional category, physical frailty, and sarcopenia in older adults with diabetes mellitus: a cross-sectional study. *Diabetol Int*. 2026 Apr 5;17(2):36. doi: 10.1007/s13340-026-00890-w. eCollection 2026 Apr.
- 2) **Takashi N**, Fujisawa M, Ohura T, Onishi J, **Ohtera S**. Variation in transitional care implementation patterns for older adults with stroke in Japan: A retrospective observational study. *Medicine (Baltimore)*. 2026 Mar 27;105(13):e48161.
- 3) Matsushita W, Nagaki K, **Takashi N**, **Ohtera S**, Ohara C, Takahashi M. Feasibility and potential effectiveness of an exergame program for people with moderate to advanced Parkinson's disease: A pilot randomized controlled trial. *J Parkinsons Dis*. 2026 Mar;16(2):320-331. doi: 10.1177/1877718X261418989. Epub 2026 Feb 4.
- 4) **Takashi N**, Omura T, Iijima H, **Ohtera S**. Evaluation of the impact of a recommended shift in glycaemic management targets for older adults on clinical outcomes and healthcare expenditures in Japan: a protocol for interrupted time-series analysis using a nationwide health insurance claims database. *BMJ Open*. 2026 Jan 22;16(1):e111616.
- 5) **Takashi N**, **Ohtera S**, Kuroda Y, Arai H, Sakurai T; J-MINT investigators. Cost-effectiveness of multimodal intervention for the prevention of dementia in Japan. *J Prev Alzheimers Dis*. 2026 Feb;13(2):100460. doi: 10.1016/j.tjpad.2025.100460. Epub 2026 Jan 1.
- 6) Watanabe M, **Ohtera S**, Kanda J, Hiragi S, Iwao T, Kuroda T, Takaori-Kondo A, Kato G. Real-world medical expenses of hematopoietic stem cell transplantation in Japan: a

nationwide database study. *Bone Marrow Transplant*. 2026 Jan;61(1):114-117. doi: 10.1038/s41409-025-02753-5. Epub 2025 Nov 15.

- 7) Takashi N, Onishi J, Fujisawa M, Ohura T, Ohtera S. Association Between In-Hospital Applications for Long-Term Care Services and Hospital Length of Stay Among Older Adults: Ecological Cross-Sectional Study. *JMIR Form Res*. 2025 Sep 8;9:e76782.
- 8) 西井久枝, 高士直己, 神谷正樹, 社本憲俊, 大寺祥佑, 野宮正範. 日本における排尿自立支援加算の地域差とその関連因子の解析：NDB オープンデータを用いた研究. *日本排尿機能学会誌*. 2025;35(2):570-578.

2. 学会発表

2023 年度

- 1) 大西丈二, 藤澤岬, 高士直己, 大寺祥佑. 介護人材不足への対策として想定する前期高齢者人口に関する地理的分析. 第 103 回中部老年医学談話会. 2024 年 2 月 10 日. 名古屋市.
- 2) 加藤源太, 田村寛, 植嶋大晃, 森由希子, 平木秀輔, 酒井未知, 大寺祥佑, 野田龍也, 児玉知子, 佐藤大介, 奥村泰之. NDB を用いた患者調査各項目の再現の検討. 第 43 回医療情報学連合大会(第 24 回医療情報学会学術大会). 2023 年 11 月 24 日. 神戸市(ハイブリッド開催).
- 3) Fujisawa M, Takashi N, Ohtera S. Exploring Factors for Regional Differences in Inappropriate Psychotropic Drug Prescribing: Ecological Study Using a Claims Database in Japan. ISPOR Europe 2023. 2023 Nov 14. Copenhagen, Denmark.
- 4) 植嶋大晃, 森由希子, 加藤源太, 中山健夫, 今村知明, 康永秀生, 田宮菜奈子, 杉山雄大, 大寺祥佑, 山本喜一, 松岡歩, 岩渕奈穂子, 黒田知宏. 介護 DB を用いた基礎的集計および「介護 DB コードブック」の作成. 第 82 回日本公衆衛生学会総会, ポスターセッション. 2023 年 11 月 2 日. つくば市.
- 5) 加藤源太, 植嶋大晃, 森由希子, 中山健夫, 山本喜一, 岩渕奈穂子, 浜口まどか, 今村知明, 康永秀生, 田宮菜奈子, 杉山雄大, 大寺祥佑, 黒田知宏. NDB と介護 DB の連結解析に際しての、要介護認定情報の活用方法に関する考察. 第 82 回日本公衆衛生学会総会, ポスターセッション. 2023 年 11 月 1 日. つくば市.
- 6) 大寺祥佑, 藤澤岬. 全国要介護高齢者における入院リハビリテーションの長期化と社会経済的要因との関連についての生態学的研究. 第 2 回日本老年療法学会学術集会. 2023 年 9 月 3 日. 奄美市(ハイブリッド開催).

2024 年度

- 1) 藤澤岬, 高士直己, 大浦智子, 土井剛彦, 大西丈二, 大寺祥佑, 島田裕之, 荒井秀典. 匿名 LIFE 情報における欠損値出現傾向の分析. 第 44 回医療情報学連合大会. 2024

年 11 月 22 日. 福岡市.

- 2) 福田英輝, 大寺祥佑, 井田有亮, 岡村敏弘, 三浦宏子. 歯科レセプト情報を用いた地域間格差に関する研究. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 2024 年 10 月 30 日. 札幌市.
- 3) 高士直己, 大浦智子, 大西丈二, 大寺祥佑, 荒井秀典. 匿名 LIFE 情報における欠損値の評価. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 2024 年 10 月 29 日. 札幌市.
- 4) 西井久枝, 高士直己, 神谷正樹, 社本憲俊, 大寺祥佑, 野宮正範. 排尿自立支援の地域差とその関連要因: NDB オープンデータからの分析. 第 31 回日本排尿機能学会. 2024 年 9 月 5 日. 郡山市.
- 5) Takashi N., Ohtera S., Kuroda Y, Arai H, Sakurai T, and J-MINT study group. Cost-effectiveness analysis of the multimodal intervention for dementia prevention: post-hoc subgroup analyses of the J-MINT. Alzheimer's Association International Conference 2024. 2024 Jul 30. Philadelphia, USA.
- 6) 大西丈二, 高士直己, 藤澤岬, 大寺祥佑. 介護データベース (介護 DB) のオープンデータを用いた要介護認定区分変更申請数の地域差に関する分析. 第 70 回東海公衆衛生学会学術大会. 2024 年 7 月 6 日. 名古屋市
- 7) 高士直己, 藤澤岬, 大西丈二, 大寺祥佑. 認知症ケア加算と抗精神病薬処方量に関する生態学的研究. 第 66 回老年医学会学術集会. 2024 年 6 月 14 日. 名古屋市.
- 8) 高士直己, 大西丈二, 藤澤岬, 大寺祥佑. 入院中の新規要介護認定申請と平均在院日数の関連: 生態学的研究. 第 66 回老年医学会学術集会. 2024 年 6 月 14 日. 名古屋市.

2025 年度

- 1) 大浦智子, 大寺祥佑, 高士直己, 中西康祐, 岡猛, 斎藤民, 荒井秀典. 科学的介護情報システム (LIFE) 関連情報を活用した介護プロセス介入の実行可能性. 第 84 回日本公衆衛生学会. 2025 年 10 月 30 日. 静岡市.
- 2) 大寺祥佑. 費用対効果評価で用いるデータ. 第 63 回日本医療・病院管理学会学術集会. 2025 年 10 月 4 日. 東京都.
- 3) Onishi J, Miura H, Hasegawa T, Kondo H, Ohtera S. A Nationwide Survey on Recognition and Current Status of Information Security Management in Japanese Long-Term Care Providers. Med Info 2025. 2025 Aug. Taipei, Taiwan.
- 4) 大西丈二, 高士直己, 藤澤岬, 大寺祥佑. 介護 DB オープンデータを用いた要介護認定申請の地域差に関する分析. 日本老年社会科学会第 67 回大会. 2025 年 6 月 28 日. 千葉市.
- 5) 高士直己, 藤澤岬, 大寺祥佑. 脳梗塞患者における退院支援関連診療行為の組み合わせパターンとその関連要因の探索. 第 34 回日本老年学会総会 (第 67 回日本老年医学会学術集会). 2025 年 6 月 27 日. 千葉市.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他